

## 54. 高齢者救急手術の経験 (80歳以上)

橋詰定明, 小川幹雄, 吉岡武雄  
(鴨川市立長狭国保病院)

今年度(1979年) たまたま80歳以上の手術を4例行う機会があり, 幸い全例救命し得た。85歳女性の左大腿骨骨折, 84歳男性のS字状結腸癌, 8歳女性の術後癒着性イレウス, 81歳女性の左股ヘルニヤ(リットル氏ヘルニヤ)で, 3例目は8カ月前子宮膿瘍破裂による汎発性腹膜炎の手術を行ったものである。いずれも肉体的, 社会的条件はきびしいもので, 予備能力の少なくなってゆくかかる年齢での手術は, すでに救急乃至は緊急的性格をもつものと考えらるべきである。これらの経験から, 患者の扱い, 麻酔, 手術, 術後管理, 退院後の注意等についても言及した。

## 55. 第65回 American College of Surgeons 総会に出席して

広田和俊 (広田胃腸病院)

第65回 American College of Surgeons 総会は, シカゴで Panel Discussion 23題, 一般演題17題, Surgical Forum 267題, 映画127本, 学術展示140題, Technical Exhibition 250題, Postgraduate course 18で, 本年10月21日から開催された。その中で特に, 消化管の機械吻合の問題, レーザーの応用, 全心臓移植の臨床, Sesap III, Le-licensure など日本の外科の学会と趣を異する面を述べた。

## 56. 都市近郊私的病院の立場からみた胃癌診療の諸問題

深町信一, 斉藤重明, 春日 正  
浜野頼隆 (深町病院)

胃癌患者409例から統計的観察を試みた。診断に際し胃X線検査に加えて, 内視鏡検査+生検を強化する事により, 早期癌を発見胃癌の21.5%, 切除胃癌の35.3%まで高めた。入院症例を, 胃集検発見例, 直接来院例, 他施設より紹介例に分類すると, 集検例の切除率は100%, うち63.6%は早期癌。つぎに直接来院例, 他施設よりの紹介例の順となった。

## 57. 小児胆管膵管合流異常症例の検討

中島克巳, 高橋英世, 真家雅彦  
大沼直躬, 飯野正敏

(千大・小児外科)

久賀克也, 神津照雄 (千大)

大川治夫 (筑波大)

教室では昭和49年より本年11月までに, 囊腫状拡張症4例, 円筒状拡張症10例, 拡張のない合流異常症1例, 乳児肝炎1例を含む胆管, 膵管合流異常症16例を経験した。診断には ERCP, エコー PTC が有用であった。また3例に胆道穿孔をみた。

## 58. ラット食道癌の経時的観察

李 思元, 鍋谷欣市, 花岡建夫  
小野沢君夫, 滝川弘志, 新井裕二  
本島悌司 (杏林大)

食道癌の発癌過程と発育形式を検討するため, 呑龍ラットに N-methylbenzylamine,  $\text{NaNO}_2$  とライホリジンを経口投与した。1カ月毎に剖検し, 5カ月まで経時的に観察した。3カ月までは乳頭腫の形成のみである。4カ月に3/13, 5カ月に13/21の発癌をみた。このうち4例は癌の初期像(早期癌)であった。

## 59. 水素クリアランス血流計による肝血流量測定

竹島 徹, 轟 健, 折居和雄  
更科広実, 尾崎 梓, 高瀬靖広  
深尾 立, 岡村隆夫, 岩崎洋治  
(筑波大)

水素クリアランス式組織血流計を用いて, 肝血流量を実験的にならびにはじめて臨床的に測定した。肝におけるクリアランス曲線の減衰は bi-exponential であった。その解析にはアナログアンプを用いて, on-line 直読式に工夫した。

## 60. 北里大学における腎移植の現況 (V)

渡部浩二, 柏木 登 (北里大学臓器移植)

過去8年間の腎移植数は, 生体109, 死体腎18例, 計127例である。死体腎の9例は本年8月より行なわれ, 生着率は夫々58.7%, 33.3%。輸血との関係では術前6カ月間に2000ml以上使用症例が最も良い成績で, DR抗原不適合度との相関では生体, 死体例とも拒絶反応をよく表現した。さらに Bredinin 投与症例では, 早期の拒絶反応を良く抑制する事を示した。